

B型解離に対する TEVAR 施行後の残存 re-entry が大動脈 remodeling に与える影響についての検討

1. 研究の対象

2013 年 1 月～2025 年 3 月に当院で大動脈解離(StanfordB 型)に対して胸部大動脈ステントグラフト内挿術(TEVAR)を受けられた方

2. 研究目的・方法

StanfordB 型大動脈解離に対する治療として TEVAR がありますが、術後に再度大動脈が拡張することで再治療が必要になることがあります。この研究では、大動脈解離に対する TEVAR を施行した後に残存する re-entry の個数や大きさ・位置がその後の偽腔の拡大や再手術の有無に関連しているかを検討することを目的としています。

偽腔：大動脈が解離することにより血管の膜と膜の間に形成される空間のこと

真腔：血管の中の本来の血液が流れている空間のこと

Entry：真腔から偽腔に入る場所

Re-entry：偽腔から真腔に血液が戻る場所

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：手術時年齢、性別、内服薬、手術前後の CT データ、TEVAR に使用されたデバイス情報、術後の再手術の有無、再手術の内容等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

心臓病センター榊原病院

住所：岡山市北区中井町 2-5-1

電話：086-225-7111

研究責任者： 心臓血管外科 平岡 有努

担当者： 心臓血管外科 池田 諒